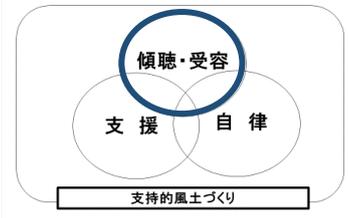


こんなことしていませんか？こんな聴き方がいいですね！

普段、子どもの話を聴くときに、自分の非言語〔表情、しぐさ、声の調子など〕を意識していますか。ほんの少し良い聴き方を意識することで、相手に「安心感」を与え「話しやすい雰囲気」を作ることができます。この「安心感」と「話しやすい雰囲気」で、相手との距離が縮まり信頼感を得ることができます。

支持的風土の理念



子どもの話を聴くときにこんなことしていませんか？

- ①腕組みや足組みをしたり、ふんぞり返ったりして、話を聴いていませんか？
- ②目線を合わせず、話を聴いていませんか？
- ③丸付けやPCをしながらなど、何かをしながら話を聴いていませんか？
- ④時計をちらちら見るなど、時間を気にしながら話を聴いていませんか？
- ⑤周囲に聞かれて困る話などを、話しにくい環境の中で聴いていませんか？



こんな聴き方がいいですね！

【 F.E.L.O.R 】

【 あいうえお 】

【 マッチング 】

- ①Face（相手の顔を見ながら）
- ②Eye contact（目を合わせて）
- ③Listen（前傾姿勢で）
- ④Open（心を開いて）
- ⑤Relax（リラックスして）

- ①あいての顔を見て
- ②いっしょうけんめい
- ③うなずきながら
- ④えがおで
- ⑤おわりまで

- ①話すスピードに合わせたうなずき
- ②話に合わせ強弱を入れたあいづち
- ③声のトーンに合わせたくり返し
- ④相手の表情に合わせた要約
- ⑤相手に合わせた間の取り方

【参考資料】日本ピア・サポート学会：トレーナー養成標準プログラム・テキストブック 2016.6.1

教師の毎日の指導や教師自身の立ち居振る舞い、表情、これらすべてが集団の風土づくりに影響を与えます。「傾聴・受容」は、子どもと向き合う教師の姿勢として、最も重要なものです。「F.E.L.O.R」は、技法ではありません。人と向き合うときの姿勢、心構えを示しています。

2019年5・6月 小・中教頭先生対象

生徒指導マネジメント研修 参加者の声

教頭先生対象の生徒指導マネジメント研修でも支持的風土をとりあげました。職員に対して、改めて「F.E.L.O.R」を意識した聴き方に努めていきたいという強い思いがアンケートから伝わってきました。

職員の同僚性の構築を大切にしたいと感じました。また、学級・全校の支持的風土をつくりあげていくためにも、教頭としての立ち居振る舞い、表情を改めて見直したいと感じました。

職員に具体的に子どもへの指導の仕方について、共通理解する必要があると思いました。職員の指導がぶれると子どもも迷います。「職員の支持的風土」について再度見直してみたいと思いました。

教頭先生の声（研修会アンケートより）

次号は、「子ども同士の傾聴」を紹介します